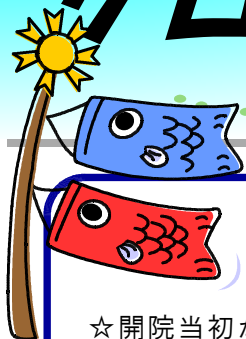


ケロちゃん通信 第11号

2016年 5月



☆色とりどりの花が咲き始め、若葉の緑が目心地良い季節になりました。

☆開院当初から、月曜日午前中、木曜日午後、土曜日午前は外来が混み合うことが多かったのですが、最近はその以外の曜日にも混み合うことも増えてきました。4月から、沢田の生協こどもクリニックが火曜日午後も休診になったため、当院の混み合う曜日が変わってくるかもしれません。時間帯では、午前10時半から11時半くらい、曜日でいうと火曜日、水曜日は比較的混み合っていない時間が多い傾向があります。急を要さない場合、ご都合がつく場合には比較的空いている時間帯に受診していただければ、短い待ち時間で済むと思います。

☆予約制を希望するご意見も頂いております。小児科の場合、急に熱が出た、咳がでたというような急性疾患の受診が大半を占めます。先に受付をしても、病状によっては後に受付をした患者さんを先に診察する場合があります。予約をしても混み合っている場合、時間通り順番通りに診察できず、かえってお待ちいただいたり、ご不便をかける場合もあります。現状では予約制にしない方が、スムーズに診療が進むという判断で診療を行っていますが、今後スタッフ体制、受診数などを考慮し、また皆様のご意見を頂戴し、定期受診などでは予約制も検討していきたいと思っています。

尚、予防接種、健診および発達外来は予約制で診療を行っていますのでよろしく願いいたします。

5月の休診予定：ありません



ながおか医療生協
あたごこどもクリニック

〒940-0038 長岡市琴平1丁目2-1
電話番号0258-36-5810
<http://www.nagaoka-iryuu-seikyuu.jp/>

5月の診療予定

	月	火	水	木	金	土
あたごこどもクリニック	8:45 ~ 12:00	吉川	吉川	吉川	吉川 本間 (6・20日)	吉川
	13:45 ~ 15:45	乳児健診 予防接種	乳児健診 予防接種 (第1・3週) 発達外来 (第2・4週)		乳児健診 予防接種	乳児健診 予防接種
	15:45~ 17:30	吉川	吉川		吉川 本間 (6日)	

受付開始：一般診療は午前8時30分、午後15時45分です。

☆一般診療

診療時間内に受診ください。予約は不要です。付き添いのお母さん等が体調不良の時もお気軽にご相談ください。緊急の場合や、特別な相談がある場合は、まずお電話ください。

☆発達外来。(第2・4火曜 13:30~16:00)

発達心配、コミュニケーションがとりづらい、落ち着きがない、かんしゃくをおこしやすい、ひきつけがある等の発達や神経に関する心配がある方もお気軽にご相談ください。

☆アレルギー外来(原則 第1・3金9:00~12:00)

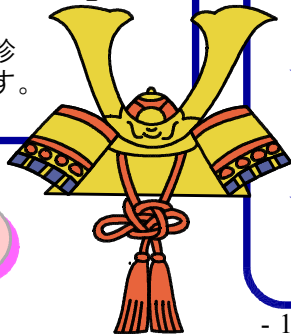
食物アレルギー、喘息、花粉症などでお困りの方は、ご相談ください。

☆予防接種、乳児健診、発達外来受診希望の場合には、

電話でご予約お願いいたします。

☆生協こどもクリニックとも協力して診療を行っています。

病児保育室「すこやか」を利用希望の方は、当院を窓口にして利用することもできます。



ヒトメタニューモウイルス感染症ってなあに？

・春先になると、保育園や幼稚園でヒトメタニューモウイルス(hMPV)感染症が流行っていると聞くこともあると思います。あまり聞き慣れない病名かもしれませんが、珍しい病気ではありません。平成26年に保険で検査ができるようになってから有名になった感じです。冬のインフルエンザ、夏の手足口病、ヘルパンギーナなどの夏かぜのほかにも季節性に流行するかぜがあります。せき、ゼーゼーの呼吸器感染症としては、春先のヒトメタニューモ、秋にパラインフルエンザ3型、秋から冬のRSウイルスが有名です。ヒトメタニューモ、RSウイルスは迅速検査で診断できますが、パラインフルエンザ3型はまだ迅速検査できません。迅速検査できるようになれば、パラインフルエンザ3型が流行っているよってということも聞かれるようになるかもしれません。

・ヒトメタニューモウイルスは、気管支や肺炎などの呼吸器感染症を引き起こすウイルスの1種です。症状はRSウイルス感染症と似ています。3月～6月に流行することが多く、1歳～2歳の幼児がもっとも感染します。小児の呼吸器感染症の5～10%はこのウイルスが原因です。1回感染しても免疫ができず繰り返し感染することで次第に免疫を獲得していきます。

<症状>

- ・咳、鼻、熱などの風邪症状が主体です。年長児は感染しても、風邪症状で終わることが多いです。鼻水や痰などが付着した手や物からの接触感染および、せきや痰による飛沫感染により感染します。
- ・1歳～2歳児で高熱が出てゼコゼコしていれば、ヒトメタニューモウイルス感染症が疑われます。乳幼児では重症化することがあり、注意が必要です。
- ・38～40℃の熱が4～5日続き、ゼコゼコ咳き込みがひどくなり呼吸困難があれば細気管支炎や肺炎が疑われ、入院加療が必要になる場合もあります。また、細菌に重複感染することもあります。

<診断>

- ・ヒトメタニューモウイルスの迅速診断キットがあります。鼻咽頭を細い綿棒でぬぐい検査することにより10分程度で結果が得られます。感染していてもウイルス量が少ないと陰性になることもあります。
- ・平成26年4月から保険適応になりました。しかし、保険診療上の制限があり、保険適応になるのは6歳未満で、レントゲン検査などで肺炎が強く疑われる場合に限られます。

<治療>

- ・診断はできますが、ヒトメタニューモウイルスに効くお薬はありません。治療は対症療法のみで、熱、咳、喘鳴などに対する治療を行います。
- ・水分がとれない、眠れない、呼吸が苦しい等の症状がみられたら、すぐに受診してください。

<予防>

- ・手洗いやうがいの励行、マスクの着用、タオルや食器の使い分けなどが必要です。

<登園・登校の基準>

- ・発熱、せきなどの症状が無く、全身状態が良好であれば登園・登校できます。
- ・許可証は特に必要ありません（施設によっては必要な場合もあります）。症状が安定するまで自宅療養をしてください。

お母さんありがとう

